

[課程-2]

審査の結果の要旨

氏名 千葉理恵

慢性精神疾患をもつ人々におけるリカバリーとベネフィット・ファインディングには有意な正の相関があることが明らかになっているが、ベネフィット・ファインディングの促進によってリカバリーを高めることを目指すプログラムはこれまでに開発されていなかった。本研究は、慢性精神疾患をもつ人々を対象とした、ベネフィット・ファインディング促進を含むリカバリー促進プログラムを作成し、無作為化比較試験によって介入効果を検討したものである。プログラムは、ワークブックを用いた1回2時間・計8回の集団セッションで構成され、ネガティブな側面への対処に関する内容は含まず、人のもつポジティブな側面を高めることに焦点をあてていることが特徴である。ベースライン、介入後、3か月後フォローアップの3時点で自記式調査票による調査を実施し、プライマリアウトカム(リカバリー)およびセカンダリー・アウトカム(希望、幸福感、有意味感)について分析し、以下の結果を得ている。

1. ITT 解析($n = 54$)では、リカバリースコアには有意な介入効果(時間×群)は見られなかったが、脱落者等を除外した per-protocol 解析($n = 46$)では、Recovery Assessment Scale (RAS)合計スコアおよびRASの「自信」のドメインにおいて有意な介入効果が認められた。
2. セカンダリー・アウトカムの各尺度スコアは、ITT 解析、per-protocol 解析いずれにおいても、全ての群、時点においてほとんど変化がみられなかった。
3. 介入群を対象として、セッションへの参加が5回未満だった群と5回以上だった群を比較したサブグループ解析では、RAS 合計スコア RAS のドメインのうち「自信」、「症状に支配されないこと」、「手助けを求めるのをいとわないこと」の3つ、および Self-Identified Stage of Recovery Part-B (SISR-B)合計スコアにおいて有意な介入効果がみられた。また、希望を評価する尺度(Herth Hope Index)においても有意な介入効果が認められた。

以上、本研究は、作成したリカバリー促進プログラムが慢性精神疾患をもつ人々のリカバリー促進効果をもつ可能性を示唆した。また、本研究は、これまで検証されていなかったベネフィット・ファインディング促進の介入がリカバリー促進に寄与する可能性があることを示唆するものであり、精神保健学・精神看護学領域において重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。